

第 29 回生殖・発生毒性学東京セミナーを別紙の要綱で開催する運びとなりました。

今回のセミナーは、特集として「神経発生毒性」を企画しました。また、若手研究者育成を目的とした「学生による研究発表」、さらに、話題提供として「韓国の GLP 事情」、と多彩な内容になりました。

【特集】「神経発生毒性」

演題 1 「神経発生毒性研究の歴史と展望」

青山 博昭 先生 (一財) 残留農薬研究所)

「1960 年代初頭に提唱された行動奇形学を起源とする神経発生毒性学は、OECD ガイドラインの制定 (2007 年) により、規制の科学の一分野としてその地位を確立した。今回のセミナーでは、神経発生毒性研究の歴史を振り返りつつ、規制の科学の側面から今後の展望について議論する。」

演題 2 「胎児期のエタノール曝露が誘発する大脳皮質の発生・発達における

神経発生毒性と神経行動毒性」

駒田 致和 先生 (愛知学院大学歯学部解剖学講座)

「胎児アルコール症候群 (FASD) では発達障害などの脳機能異常が報告されている。FASD モデルマウスにおける新生児期・成熟期の行動異常と、その原因となる大脳皮質の器質的異常についての解析を紹介する。」

演題 3 「胎児脳を用いた DNT の新たな検出法/胎生期ヒ素曝露による胎児脳発達への影響」

瀬沼 美華 先生 (一財) 食品薬品安全センター秦野研究所)

「ヒ素は飲水への混入が問題となっている環境汚染物質であり、脳発達障害との関連が懸念されている。器官形成期にヒ素を曝露した胎生 16 日の脳を観察し、発達神経毒性発現の可能性を検討した結果を示す。」

【研究発表】「麻布大学獣医学部 動物工学研究室のご紹介」

滝沢 達也 先生 (麻布大学 獣医学部動物応用科学科)

演題 1 「ラット動脈管における平滑筋弛緩関連遺伝子の発現と Cox 阻害剤のパラドクス」

石松 典隆 (大学院修士 1 年次)

「動脈管は肺への血流量の大半を大動脈へと迂回させる短絡路であり、生後は呼吸開始とともに急速に収縮する。この動脈管の胎生期の拡張と生後の収縮に関連した Cox 阻害剤の逆説的効果とその要因についての検討結果を示す。」

演題 2 「ラット子宮筋層における S-ニトロシル化タンパク質の解析」

高松 美奈 (大学院修士 1 年次)

「一酸化窒素 (NO) は cGMP 産生を介する経路と、システイン残基のチオール基の S-ニトロシル化を介する経路で作用している。妊娠ラットの子宮筋層での S-ニトロシル化タンパク質の解析結果を示す。」

演題3「バルプロ酸を用いたラット脂肪組織由来幹細胞の神経分化」

林 大希 (大学院修士1年次)

「抗けいれん薬（抗てんかん薬）の一種であるバルプロ酸は神経幹欠損などの催奇形性を有し、胎児や成体から採取される神経幹細胞の神経分化を促進することが報告されている。ラットの脂肪組織由来幹細胞の神経分化について報告する。」

【話題】「韓国における GLP 事情」

松下 洋一 先生 ((株) バイオトクステック)

「韓国は日本と同様 OECD 加盟国であり、GLP は OECD GLP を根本としている。韓国 CRO に安全性試験を委託するための情報として、日本の GLP との相違を中心に紹介する。」

-
-
- ※ セミナー終了後に懇親会を企画しています。会員相互の親睦を深めると共に情報交換の場としてご活用ください。皆様の多数のご参加をお待ちしています。
 - ※ 企業や団体の参加者で、リーフレットの配布、資料等の展示がございましたらお申し出ください。半机分のスペースを準備いたします（無料）。

生殖・発生毒性学東京セミナーは、12名の実行委員が世話人として持ち回りで開催しています。

<セミナー実行委員> ○：第29回担当委員

○則武 健一	(株)サンプラネット
○名波 加奈	(公財)食品農医薬品安全性評価センター
清水 達也	(株)イナリサーチ
小林 健一	(独)労働安全衛生総合研究所
石原 可奈	中外製薬(株) 安全性研究部
宇部 雅進	田辺三菱製薬(株) 安全性研究所
鷹野 正生	(株)ボゾリサーチセンター
中島 幹夫	旭化成ファーマ(株) 安全性・動態研究部
星野 信人	(株)LSIメディエンス
宇佐見 誠	国立医薬品食品衛生研究所
太田 亮	(一財)食品薬品安全センター 秦野研究所
松岡 俊樹	第一三共(株) 安全性研究所

第 29 回 生殖・発生毒性学東京セミナー

日時： 2015 年 9 月 26 日（土） 13:25~17:00（受付:13:00~）
 会場： 「独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター」
 センター棟 4 階、402 室 （別添地図参照）
 懇親会： カルチャー棟 2 階「レストラン とき」
 会費(当日)： セミナー：1,500 円（学生・大学院生無料）
 懇親会：一般 3,500 円、学生・大学院生 1,000 円
 （先天異常学会の名誉・功労会員はセミナー会費無料とします。）
 （セミナー・懇親会ともに、ノーネクタイのカジュアルな服装でご参加ください。）

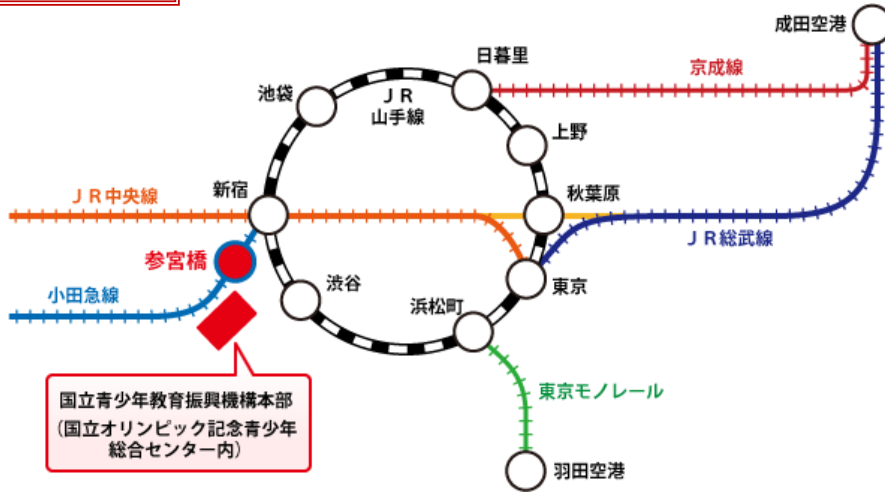
プログラム

- 13:00~13:20 受け付け
 13:20~13:25 開会のことば
 進行 則武 健一（(株) サンプラネット）
 進行 名波 加奈（(公財) 食品農医薬品安全性評価センター）
- 【特集】「神経発生毒性」
1. 13:25~14:10 演題 1 「神経発生毒性研究の歴史と展望」
 青山 博昭 先生（(一財) 残留農薬研究所）
 2. 14:15~15:00 演題 2 「胎児期のエタノール曝露が誘発する大脳皮質の発生・発達における
 神経発生毒性と神経行動毒性」
 駒田 致和 先生（愛知学院大学歯学部解剖学講座）
 3. 15:00~15:20 演題 3 「胎児脳を用いた DNT の新たな検出法/胎生期ヒ素曝露による
 胎児脳発達への影響」
 瀬沼 美華 先生（(一財) 食品薬品安全センター秦野研究所）
- ~15:35 休憩
4. 15:35~16:10 【研究発表】「麻布大学獣医学部 動物工学研究室のご紹介」
 滝沢 達也 先生（麻布大学 獣医学部動物応用科学科）
 演題 1 「ラット動脈管における平滑筋弛緩関連遺伝子の発現と Cox 阻害剤 の
 パラドクス」
 石松 典隆
 演題 2 「ラット子宮筋層における S-ニトロシル化タンパク質の解析」
 高松 美奈
 演題 3 「バルプロ酸を用いたラット脂肪組織由来幹細胞の神経分化」
 林 大希
 5. 16:15~16:45 【話題】「韓国における GLP 事情」
 松下 洋一 先生（(株) バイオトクステック）
- ~16:50 閉会のことば
 17:10~18:40 懇親会

（事務局から） 参加希望者は、9 月 16 日（水）までに全員の氏名・所属・連絡先（住所、TEL、FAX、e-mail）
 をご記入の上 e-mail で事務局にお申込みください。学生の方はお申し出ください。なお、当日受付も行いま
 すが、ハンドアウトを配付できない場合もありますのでご了承願います。

事務局 日本バイオアッセイ研究センター 神奈川県秦野市平沢 2445 TEL:0463-82-3911
 奥田裕計 e-mail: h-okuda@jisha.or.jp

アクセス



JR 東京駅から

JR 中央線 約 14 分 新宿駅乗り換え

小田急線 各駅停車 約 3 分

参宮橋駅 下車 徒歩約 7 分

小田急線

参宮橋駅下車 徒歩約 7 分

地下鉄千代田線

代々木公園駅下車

(代々木公園方面 4 番出口) 徒歩約 10 分



参宮橋からの[歩道橋]を使った経路



参宮橋からの[横断歩道]を使った経路



セミナー会場：
センター棟 4 階、402 室

懇親会：カルチャー棟 2 階

